

はじめての

万葉集

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介します

vol. 142

春来るらし

この歌は「詠霞」と題された歌群の中の一首で、季節に関わる歌を集めた『万葉集』巻十に収められています。

作者も詠まれた時期も明確にはわかりませんが、類似する表現を持つ持統天皇歌「春過ぎて夏来るらし白栲の衣乾したり天の香具山」（巻一・二八）が最古の季節歌と考えられており、それ以降の歌とみられます。

朝の春日山に霞がたなびいている景色を見て春の到来を感じたと表現されていることから、春日山の西に営まれた平城京に遷都した後の歌であった可能性が高いといえます。

万葉歌が詠まれ書き記された時代は、まだひらがなやカタカナがありません

冬過ぎて

朝日さす

春来るらし

春日の山に 霞たなびく

作者未詳（巻十・二八四四番歌）

思朝鳥指滓鹿能山余霞軽引」といった具合です。

「寒」は寒い季節の意味で「ふゆ」、反対に「暖」は暖かい季節ということでは

る」とよませたと考えられています。その一方で、「良思」は漢字の意味とは関係なく「らし」の発音を、「滓鹿」も同様に「かすが」という発音を示すための表記です。また、「朝鳥」は、太陽の中に三本足の鳥がいるという中国の伝説による太陽の別称「金鳥」にもとづく用字と

みられます。「たなびく」を「軽引」と表記しているのもとても面白く感じます。「霞」のように、現代と同じ文字とよみかたもあれば、まったく異なる漢字の使い方もあり、興味は尽きません。

現代日本語の感覚からするとふざけた感じがしますが、興味は尽きません。

訳

冬がおわって春が来たらしい。朝日のさす春日山に霞がたなびくことよ。



（万葉文化館 井上さやか）

万葉文化館 イベント情報

◆特別展

「隙あらば猫 町田尚子絵本原画展」

開催中〜5月6日（振休）

怖さとユーモア、美しさと思議さをあわせもった画風で緻密な描写が魅力の絵本作家・町田尚子さんの絵本原画や絵画などを展示します。万葉文化館にちなんだ作品もご覧いただける展覧会です。



「わたしのマントはぼうしつき」原画 岩崎書店 2021年

※小・中学生、国内の高校生・18歳未満の人は無料。その他割引など、詳しくは当館HPをご覧ください。

◆学芸員によるギャラリートーク

申込不要・要観覧券

3月21日（土）14時〜

「会場」日本画展示室

◆おはなしの森 無料申込不要

3月20日（祝）11時〜14時

当館万葉図書・情報室の職員が特別展にちなんだ町田尚子さんの絵本の読み聞かせを行います。

「会場」万葉図書・情報室

◆隙あらばウチの猫！我が家の猫自慢

開催中〜5月6日（振休）

募集した自慢の猫ちゃんの写真を掲示します。

「会場」当館1階 ホワイエ

◆万葉集をよむ 無料

3月18日（水）14時〜15時30分

「冬の相聞」

（巻8・1655〜1663番歌）

「講師」榎戸涉吾（万葉文化館研究員）

「定員」150人（先着・申込不要）

※オンライン視聴は要申込（定員なし）

◆にぎわいフェスタ万葉春

4月25日（土）〜6月7日（日）まで

※詳しくは当館HPをご覧ください。



奈良県立 万葉文化館
☎0744-54-1850
🌐www.manyo.jp